

2022年1月25日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
(東証一部 / 証券コード: 3762)

システムのモダナイゼーションやマイクロサービス化に欠かせない API のテスト自動化と仮想化を 1 ツールで実現する 「SOAtest/Virtualize 2021.2」の販売を開始

OWASP Top 10 で提唱されているセキュリティ脅威などを検出する API のセキュリティテスト機能や
Azure DevOps、Jira などの要件とテストの関連付けを行う要件トレーサビリティ機能を搭載！

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：由利孝、以下「テクマトリックス」）は、米国 Parasoft Corporation（本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa、以下「Parasoft 社」）が開発した API テストの自動化とサービス仮想化を 1 ツールで実現する「SOAtest/Virtualize 2021.2」の販売を 2022 年 1 月 25 日より開始します。

DX 全盛の今、さまざまなデータを利活用するためのレガシーシステムのモダナイゼーションや、ビジネス要件への素早い対応を可能にするマイクロサービスアーキテクチャの採用が進んでいます。これらのシステム開発において、API（主に REST API）を用いてデータ連携をすることが DX を実現するためのアーキテクチャとして定着しました。それに伴い、データ連携を支える API や API を利用する側のアプリケーションの品質の担保に適したテスト手法を採用することが重要になっています。

SOAtest/Virtualize は、データ連携に欠かせない API の開発者と利用者に向けて、テストの自動化とテスト環境の仮想化（サービス仮想化）の 2 つの側面から開発の効率化をサポートします。API の開発者には、正しくデータを提供できていることを検証するために、API のテストドライバーを自動生成し、API の単機能テストやシナリオテストの実行を自動化する機能を提供します。API を利用する側のアプリケーションの開発者には、データを利用してアプリケーションが正しく動作することを検証するために、データ連携で用いる API を仮想化（高性能なモックサーバー・スタブを自動生成）し、疑似的にデータを提供することで、いつでも、何度でも、テストを実行できる環境を提供します。

このたび販売を開始した SOAtest/Virtualize 2021.2 では、API のテスト自動化機能（SOAtest）において、API のセキュリティテスト機能が搭載されました。これは、OWASP Top 10 で提唱されているセキュリティの脅威などを検出する 119 個のルールを備え、SOAtest で作成済みのテストをそのまま使用して API（REST/SOAP）の静的および動的セキュリティテストを開発の早期段階から自動化することを可能にします。また、新しく搭載された要件トレーサビリティ機能では、Azure DevOps や Jira など管理している要件と SOAtest の GUI 上でテストの関連付けを行い、要件ごとにテストを実行し、要件がテストされているかを管理することを可能にしました。

テスト環境の仮想化機能（Virtualize）では、CRUD 機能が強化されました。データの登録、参照、更新、削除を行うシナリオテストにおいて、状態や文脈に応じて CRUD 操作を行い、レスポンスする値を動的に変えることができるテスト環境（ステートフル仮想化/CRUD 仮想化）を、より一層、簡単に構築することが可能になりました。

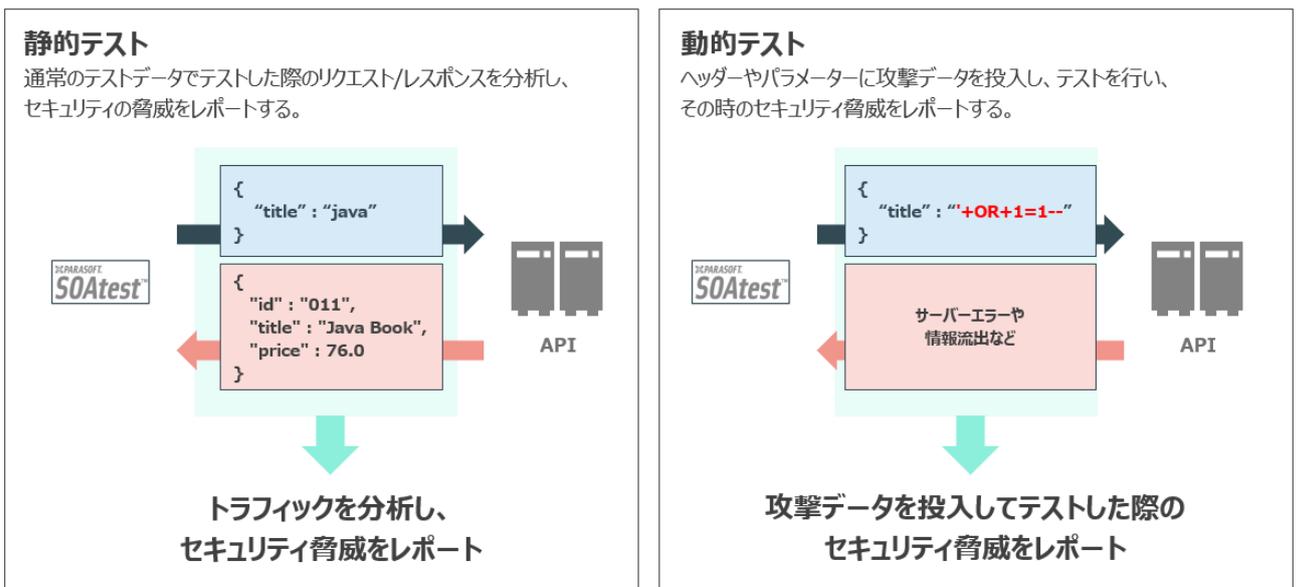
さらに、製造業における IoT 化やシステムのマイクロサービス化に伴い、データ連携で採用が進む新しいテクノロジー (Kafka, MQTT, RabbitMQ, protobuf, WebSocket など) を取りまとめ、API のテスト時 (SOAtest) とサービスの仮想化 (Virtualize) の両方で使用する IoT/マイクロサービスパックに機能改善が施されました。

テクマトリックスは、Parasoft 社製品の国内総販売代理店として、システムのモダナイゼーションやマイクロサービス化に欠かせない API の開発と API を使用するアプリケーションの開発に携わるすべてのお客様の課題解決に最適なツールとして、SOAtest/Virtualize の販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を強化してまいります。

【SOAtest/Virtualize 2021.2 の主な新機能・改善点】

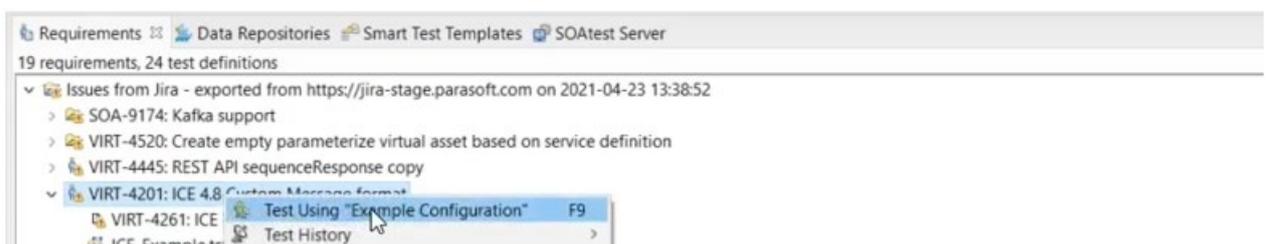
- OWASP Top 10 で提唱されている脅威などを検出する API のセキュリティテスト機能を搭載**

API の開発や利用が加速する中で、セキュリティ面での品質保証も要求される時代になりました。本バージョンで SOAtest に搭載された API のセキュリティテスト機能は、OWASP Top 10 で提唱されているセキュリティの脅威などを検出する 119 個のルールを備え、SOAtest で作成されたテストシナリオを流用して、開発の初期段階から API (REST/SOAP) のセキュリティテストを継続的に実行することを可能にしました。この機能は、API の機能テストで送受信したトラフィックを分析し、脅威をレポートする静的セキュリティテストに加え、リクエストに攻撃データを投入し、レスポンスの分析と脅威をレポートする動的セキュリティテストを実施します。



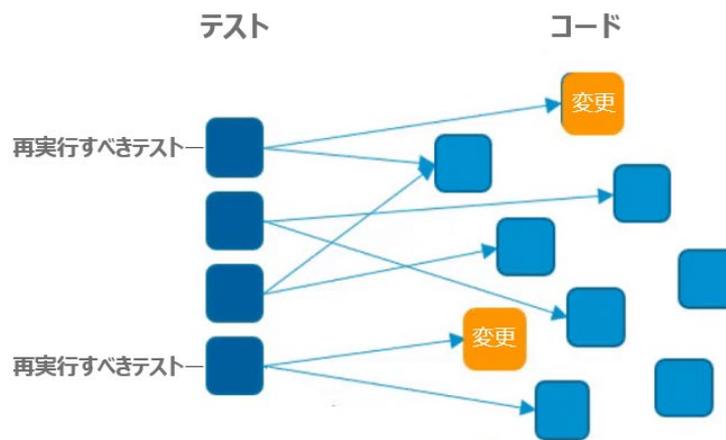
- Azure DevOps や Jira の要件を SOAtest のテストと関連付ける要件トレーサビリティ機能**

本バージョンで SOAtest に搭載された要件トレーサビリティ機能は、SOAtest の GUI 上 (要件ビュー) で、Azure DevOps や Jira など管理している要件を SOAtest のテストとドラッグ&ドロップで関連付けることを可能にしました。この機能は、要件ごとにテストを実行することに加え、SOAtest の GUI 上で要件に関連するテストを一元管理でき、テストが漏れている要件はないか、テストは成功しているのか、といった確認を行えます。※要件トレーサビリティ機能を使用するには、別途 Parasoft DTP が必要です。



Press Release

- コードの変更に伴い再実行すべきテストを洗い出すテスト影響分析のワークフローを簡略化
 API の開発においては、バージョンアップの頻度も多く、頻繁にコードに修正・変更が入ることがあります。そのため、継続的な API テスト（回帰テスト）が必要になりますが、毎回、すべてのテストを実行するには、テスト時間が課題になることがあります。テスト影響分析は、コードの変更に伴い、再実行すべき API テストを洗い出し、優先的に実行すべき API テストをリストアップする機能です。本バージョンの SOAtest では、テスト コンフィギュレーションにテスト影響分析のオプションが追加され、一連のワークフローが簡略化されました。テスト影響分析を CI に組み込むと、優先的に実行すべき API テストのリストアップとそれらのテストの実行を自動化する仕組みを構築できます。※テスト影響分析機能は、Java 言語のみの対応です。



- 状態や文脈に応じた適切なレスポンスを可能にするステートフル仮想化/CRUD 仮想化の強化
 UI テストにおけるシナリオテストでは、データの登録から参照、更新、削除など、CRUD 操作が介在することがよくあります。このようなテストを行うためのテスト環境では、CRUD 操作も適切に仮想化する必要があります。本バージョンで強化された Virtualize の CRUD 機能では、従来の登録、更新、削除に加えて、読み取り操作が搭載され、より一層、簡単にステートフル仮想化/CRUD 仮想化の設定が行え、テスト環境を簡潔に構築できるようになりました。

【SOAtest/Virtualize の稼働環境】

- Windows 64bit
Windows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019
- Linux 64bit
GTK+ 3.20 以降

製品の詳細は Web ページをご確認ください。

URL : www.techmatrix.co.jp/product/soatest_virtualize/

【SOAtest/Virtualize の販売開始日】

- 販売開始日 : 2022 年 1 月 25 日
- 出荷開始日 : 2022 年 1 月 25 日

- ・ 2022年1月25日において、保守サービスをご契約いただいている SOAtest/Virtualize のユーザー様には、「SOAtest/Virtualize 2021.2」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

■Parasoft Corporation について

Parasoft 社は、25 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft 社のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、頑強なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 社製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組み込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。Parasoft 社のコンサルティングサービスは、ツールでは解決できない問題の解決や開発プロセスの改善など、Parasoft 社の 25 年以上の経験を直接お客様に提供し、お客様の改善活動を支援します。詳細は Web サイト：www.parasoft.com/ をご参照ください。

■テクマトリックス株式会社について

テクマトリックス（東証一部：3762）は、クラウドコンピューティング時代に技術革新をもたらす情報基盤技術のインテグレーションを提供する「情報基盤事業」と、ソフトウェア開発のベストプラクティスを駆使してアプリケーション開発を行なう「アプリケーション・サービス事業」を展開しております。ソフトウェアエンジニアリング分野では、20 年にわたり、ソフトウェア品質向上をサポートする製品を海外より輸入し、日本国内に提供するためのローカライゼーション、コンサルティング、技術サポート、教育などさまざまな付加価値を付けてご提供しています。詳細は Web サイト：www.techmatrix.co.jp/ をご参照ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

テクマトリックス株式会社

ソフトウェアエンジニアリング事業部 SOAtest/Virtualize 担当

E-mail：parasoft-info@techmatrix.co.jp

TEL：03-4405-7853

*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。